

習熟度に応じた手引き

標準（のびのび）コース

ねらい＜児童相互の交流の時間を保証し、解決方法を共通理解できるようにする。＞

児童の実態

のびのびコースは、既習事項の理解が概ねできている児童（レディネステスト等の正答率が6割～8割程度目安）が対象である。

導入	＜解決方法の見通しがいくつか持てるようにする。＞
㉞ 既習事項の確認	・既習事項の確認の時間を必ずとる。
㉟ 問題提示	・教科書と同じ程度の問題を扱う。 ・児童の生活に結び付いた問題や知的好奇心をくすぐる問題を用意する。
㊱ 見通しを持つ場の設定	・教師が児童の学習状況に応じて、解決の方法や結果の焦点化を行う。・・・教師の関わり少（※）。

※比較的少なめ



自力解決	＜いくつかの解決方法を用いて、問題を解決できるようにする。＞
㉠ 操作活動の設定	・具体物を用いた操作活動を取り入れる。【少】
㉡ 学習プリントやヒントカードの用意	・スモールステップに応じたヒントやプリントを用意しておく。【少】
㉢ 協働学習の設定①	・意思表示カード（※）等を用い、児童が協働学習を選択できるようにする。

のびのびコースでは、自力解決の場がポイント。

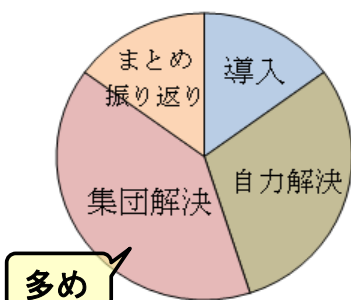
※表に「1人でも大丈夫」、裏に「みんなで考える」が書いてあるカード

集団解決	＜互いの解決方法を理解し、分かりやすく説明できるようにする。＞
㉣ 協働学習の設定②	・教師はファシリテーター役（促進役）となって、児童の発言をつないでいく。（復唱はしない。） ・グループで根拠を基に説明し合う場を設定する。
㉤ 協働学習の設定③	・全体で説明する際に、1つの方法に対して、1人もしくは複数で答える場を設定する。

まとめ振り返り	＜分かったことと分かるまでのプロセスの確認をできるようにする。＞
㉦ 共有する場の設定	・児童のまとめが本時のめあてを押さえたものになっているか確認する。
㉧ 適用問題の提示	・数値や場面を変えた適用問題を提示する。

教師は児童の考えを生かすように気を付ける。

時間配分イメージ



児童の学習状況によっては、他コースの手引きを取り入れていく場合もあるよ。

児童の自己肯定感を高め、自信を付けさせるためにもたくさん賞賛していくことが大切！！
結果を褒めるだけでなく、途中までできていたら、どんどん褒めていこう！！

一部の児童の発表に偏らないように、途中までできている児童にもどんどん発表させよう！！
そのためにも、チェックリストを作成し、意図的指名を心がけよう！！



習熟度に応じた手引き

発展（チャレンジ）コース

ねらい <考えを練り上げる時間を保証し、
様々な考えを関連付け、統合・分類できるようにする。>

児童の実態

チャレンジコースは、既習事項の理解が十分にできている児童(レディネステスト等の正答率が9割以上目安)が対象である。主体的・意欲的に取り組む児童が望ましい。

導入

<解決方法のより良い見通しが持てるようにする。>

⑦ 既習事項の確認

・既習事項とのつながりを児童に確かめさせる。

① 問題提示

・必要に応じて、問題の数値や条件を難しくする。
・知的好奇心をくすぐる問題(*)を用意する。

⑤ 見通しを持つ場の設定

・児童たちで話し合い、解決の方法や結果を持てるようにする。

教師は問題提示に気を付ける。

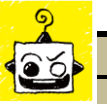


*ここでは、算数の面白さやよさに触れられる問題と捉える。

自力解決

<より良い解決方法を用いて、問題を解決できるようにする。>

児童の学習状況により、のびのびコースやじっくりコースの手立てを行う場合がある。(㊦㊧㊨)



チャレンジコースでは、集団解決の場面がポイント。

集団解決

<互いの解決方法を理解し、分かりやすく説明できるようにする。>

④ 協働学習の設定②

・教師はファシリテーター役(促進役)となって、児童の発言をつないでいく。(復唱はしない。結論は児童から。)
・グループで根拠を基に説明し合う場を設定する。(話し合いの視点の提示)

② 協働学習の設定③

・全体で説明する際に、1つの方法に対して、1人もしくは複数で答える場を設定する。

まとめ 振り返り

<分かったことを深めたり、広げたりすることができるようにする。>

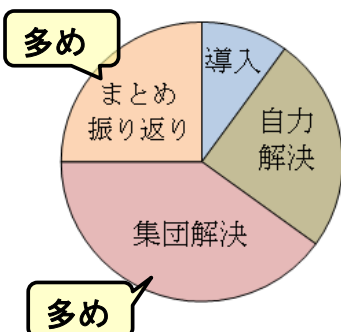
⑦ 共有する場の設定

・児童のまとめが本時のめあてを押さえたものになっているか確認する。

⑨ 発展問題の提示

・適用問題だけでなく、解決するためにひと工夫必要な発展問題も提示する。

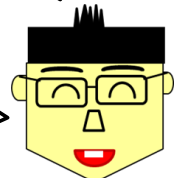
時間配分イメージ



児童の学習状況によっては、他コースの手引きを取り入れていく場合もあるよ。

児童の自己肯定感を高め、自信を付けさせるためにもたくさん賞賛していくことが大切！！
結果を褒めるだけでなく、発言しようとする態度など、どんどん褒めていこう！！

キーワードは「主体的」！！
そのためにも、児童の発言で進んでいく授業を心がけよう！！
児童の考えや思いをつないでいくことが、教師の役割として重要になってくるよ。



習熟度に応じた手引き

補充（じっくり）コース

ねらい <作業的・体験的活動を保証し、解決方法を導き出せるようにする。>

児童の実態	じっくりコースは、既習事項の理解が十分でない児童（レディネステスト等の正答率が5割以下目安）が対象である。人数は少なめが望ましい。
-------	---

導入	<解決方法の見通しを持てるようにする。>
㉞ 既習事項の確認	・既習事項との違いを確かめる時間を十分とる。
㉟ 問題提示	・必要に応じて、問題の数値や条件をやさしくする。 ・児童の生活に結び付いた問題を用意する。
㊱ 見通しを持つ場の設定	・教師が児童の学習状況に応じて、解決の方法や結果の焦点化を行う。・・・教師の関わり多(※)。

じっくりコースでは、導入の場がポイント。



※比較的多め

自力解決	<1つの解決方法を用いて、自分の考えを持てるようにする。>
㊲ 操作活動の設定	・具体物を用いた操作活動を取り入れる。(多)
㊳ 学習プリントやヒントカードの用意	・スモールステップでのヒントやプリントを用意しておく。(多)
㊴ 協働学習の設定①	・自力解決が困難な児童を集め、協働学習の場を取り入れる。

協働学習で助言する内容を明確にしておく。



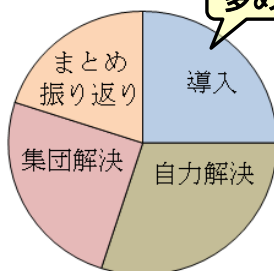
集団解決	<互いの解決方法を理解し、自分なりの言葉で説明することができるようにする。>
㊵ 協働学習の設定②	・全体に説明する前に、ペアになり解決方法を自分の言葉で説明し合う場の設定をする。
㊶ 協働学習の設定③	・全体に説明する際に、1つの方法に対して、短く区切りながら複数の児童で説明したり、繰り返し説明したり、補足説明したりする場を設定する。その際、大事な言葉は黒板に書きとめておき(可視化)、まとめにつながるようにする。

まとめ振り返り	<分かったことの確認をできるようにする。>
㊷ 共有する場の設定	教師が多様なまとめ方を準備しておく。 ・教師が提示したキーワードをつなげさせる。 ・穴埋め式にする。 ・ペアで考えさせる。
㊸ 適用問題の提示	・本時の内容の理解を確認する問題<適用問題>を提示する。(数値を変えた類似問題等)

教師側の一方的なまとめにならないように気を付ける。



時間配分イメージ



多め

児童の学習状況によっては、他コースの手引きを取り入れていく場合もあるよ。

児童の不完全な表現や稚拙な言葉などの中に素晴らしい気づきが隠れていることを教師が理解しよう。その上で、疑問や驚きなどの率直な思いを取り上げて、学級全体で学習を深めていこう。

一部の児童の発表に偏らないように、途中までできている児童にもどんどん発表させよう！！
そのためにも、チェックリストを作成し、意図的指名を心がけよう！！

